

タケノコ掘り 歓声

長岡京で向日が丘支援学校の児童



市民団体のスタッフと一緒にタケノコ掘りを楽しむ児童たち(長岡京市粟生)

土の感触楽しむ

府立向日が丘支援学校(長岡京市井ノ内)の小学部の児童たちが18日、同校近くの竹林でタケノコ掘りを体験した。主催した市民団体「長岡京市環境の都づくり会議」のメンバーたちと一緒に、土の匂いや感触も楽しんで交流を

始めており、今回初めてタケノコ掘りも企画した。

同校の児童40人と教員約30人、環境の都づくり会議のメンバー8人は、同会議が整備を担当している竹林で、地面から顔を出しているタケノコを、スコップなどを使って丁寧に掘り出した。児童たちは、収穫したタケノコを手にとって「大きい」「おいしそう」などと歓声を上げていた。

同会議の江川宗治代表(76)は「タケノコがどんなふう to 育っているのかを知ってほしかった。竹により親しみを感じてもらえたらうれしい」と話していた。

(松尾浩道)